

1月の園だより



2019年1月

吉野幼稚園

園長 郡山 健次郎

主 題：喜び合う

聖書のことは：「人はそれぞれ神から賜物をいただいて

いるのですから人によって生き方が違います」(コリント7：7)

皆さん、新年あけましておめでとうございます。新しい年をどんなふうにお迎えになったのでしょうか。子どもたちが顔をかがやせながら家族の皆さんと新年をお祝いしている姿が浮かびます。

ところで子どもたちともどもどんな初夢を見たのでしょうか。私の初夢は吉野幼稚園の子どもたちが幼児サッカー大会で優勝したというものです。唐突な感じがするかもしれませんが、私が好きということもあって、以前の幼稚園では子どもが30名弱だったにもかかわらずサッカークラブがありました。試合にも出ました。もっとも、数が少ないのでよそのチームと合流する形での参加でしたが、残念ながら優勝の経験はありません。吉野幼稚園に来てからもサッカークラブへの思いは変わらずありました。

で、本当を言えば、初夢としてみたのではなく、夢を持っていたということですが、実は、正夢になりそうなのです。というのも、今回、後野先生の後任として、今月から来てくださることになった清水先生は、著名な某高校のサッカー監督だったのです。私は飛び上がらんばかりにびっくりしました。「夢よ、もう一度！」私の夢はたちまち広がり広がり広がったというわけです。

実は、そんな夢を面接時に彼に話しました。突然のことで彼も面喰ったかもしれませんが、「かつて、選手たちを乗せて九州中を走り回っていました」との言葉に、本人が同意してくれたものと理解しました。初回でそれ以上の話はできませんでしたが、大きな可能性を感じました。今月中には具体的なことを皆さんにお伝えできるのではないかと思います。そんな私の初夢を皆さんとぜひ共有したいと思いました。

ところで、今月のみ言葉はパウロのコリントの教会への手紙からです。「人はそれぞれ神から賜物をいただいているのですから人によって生き方が違います」(1コリント7, 7)。

普通、賜物という言葉は「努力の賜物」のようにかなり限定的に使われているようです。これは、「努力して自分で獲得した」という意味合いになり、本来の意味から少し離れてしまっているようです。本来は、賜り(たまわり)もの、つまり頂き物という意味であるわけで、英語のギフトのほうが分かりやすいかと思います。

「子どもだけでなく私たちは誰もが神からそれぞれ違うギフトをいただいている」という認識に立つとき、お互いにそのことを先ず「喜び合う」のでなければならぬというわけです。どうかすれば、人の足りなさだけが目につきがちですが、少なくとも、この一月、お互いのギフトを探そうとする前向きな親子関係や人間関係を築くことができるよう祈ります。先月に続き、今月の主題も「喜び合う」です。